



高知大学

人文学部人間文化学科人間基礎論コース

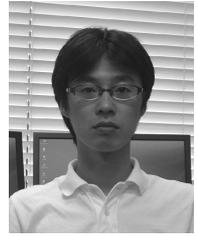
日比野 桂 (ひびの けい)

所在地：高知県高知市曙町 2-5-1

<http://jinbun.cc.kochi-u.ac.jp/>

Profile — 日比野 桂

高知大学教育研究部人文社会科学系人文社会科学部准教授。専門は感情心理学・社会心理学。主な著書は『怒りの心理学』（分担執筆、有斐閣）、『心理測定尺度集V』（分担執筆、サイエンス社）。



高知大学は、高知市内の朝倉キャンパス（人文学部・教育学部・理学部）、岡豊キャンパス（医学部）、南国市内の物部キャンパス（農学部）の三つのキャンパスに5学部を有する大学です。その中で心理学は、主に人文学部か教育学部にて学ぶことができます。

筆者は人文学部の人間文化学科に所属していますが、人文学部には他に国際社会コミュニケーション学科、社会経済学科の2学科があります。また、人間文化学科は、人間基礎論コース、地域変動論コース、言語表象論コースの3コースから構成されており、それぞれ思想学・史学・文学に対応します。心理学は哲学、倫理学、宗教学、言語学と共に人間基礎論コースに属します。

人間文化学科には、科学的な実証を基礎とする分野（心理学・考古学・地理学）、自らの論理的な思考・発想を基礎とする分野（哲学・倫理学）、文献などの資料を基礎とする分野（歴史学・文学）と、異なる研究手法を用いる分野が混在しています。3コースとこれらの分野が入り交じり、さまざまな観点から「人間」について知識と自らの考えを深め、研究する学科といえます。

教員紹介

人間基礎論コースには心理学の教員が4名います。塩坪いく子教授は、認知発達に関係した専門

科目の「認知発達心理学」と、心理学の専門教育を進めるうえでの基礎知識を習得するための「心理学概論」、さらに心理学の教員全員で担当している実験実習の授業「心理学実験Ⅱ」を担当しています。発達心理学は、研究対象者が子どもであることも多いため、学外の保育園や小学校に協力していただき、授業の中に実習として組み込まれています。保護者も含めて、実験協力者に対する研究倫理という点では最も配慮を要求されるなか、塩坪教授は結構はらはらされることが多いようですが、一方で子どもが好きという学生も多く、講義で見る顔とはまるで違った笑顔を見て内心驚くことも多いそうです。またそのような保育園での実習や研究がきっかけで、休日の子どもの遊び相手補助という声が生徒にかかることもあります。卒業後の進路に子どもと関係した職業を選択するケースも少なからずあります。

池田和夫教授は、「認知心理学」を担当しています。講義では多くのデモンストレーション実験を取り入れ、知覚から社会的認知に至るまでかなり幅広い内容を扱っています。また、「心理学基礎演習」や「心理学実験Ⅰ」も受け持っており、研究になじみのない学生たちに実証的な研究方法を教えています。また、3年次から履修できる「認知心理学演習」では学生自身の研究テーマを絞り込み、おも

に実験による卒業論文の研究につながられるような授業を展開しています。

「社会心理学」担当の増田匡裕准教授は、教養科目では「愛の心理学」という科目で、ご自身の守備範囲の「恋愛関係」の講義をしています。学生の間でも有名な科目ですが、残念ながら今年度で終わりとなるそうです。今までは専門教育の講義科目「社会心理学」の中でオーソドックスなトピックを扱っていましたが、学生に、より幅広く深い知識を身につけてもらうために、基礎的内容を教養科目で、最新の内容を専門科目で講義されるそうです。また、3年次を対象とする「社会心理学演習」は英語のテキストをもとに演習が進められています。毎週、夜遅くまで演習が行われており、とても熱心に学生を指導しています。

そして筆者は、感情心理学を専門としています。専門科目の講義「感情心理学」では、感情に関する基礎的理論から個別の感情までの広範囲な内容について、定義の問題や研究方法を含め紹介しています。「感情心理学演習」では、感情心理学に関する論文を取り上げて議論したり、学生それぞれが興味あるテーマについて関連要因を調べてまとめたりと、卒業論文を意識した演習を行っています。また、「心理学基礎演習」では統計学の基礎的知識を、「心理学実験Ⅰ」では調査用紙を用いた研究

手法の基礎を担当しています。統計学や調査研究を初めて体験する学生がほとんどで、心理学基礎演習では理論を、心理学実験Ⅰでは実践を重視し授業をしています。さらに、教養科目の「心理学を学ぶ」では200名を超える学生に毎回、四苦八苦しています。

カリキュラム

心理学を希望する学生は、人間基礎論コースへ分属される必要があります。1年次の終わりに学生に分属したいコース希望を確認し、希望に沿って、2年次からそれぞれのコースに分属されることとなります。1年次において心理学について学ぶとしたら、教養科目として開講されている授業を履修することとなります。教養科目の授業は、入門的・初歩的な内容です。心理学は高校までの間ではほとんど習ったことがなく、新たに学ぶ未知なものです。そのために教養科目の授業は、心理学とはどのような学問であるかを理解してもらうことを主眼としています。

コース分属された2年次より、専門的に心理学の勉強が始まります。2年次に「心理学基礎演習」「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」などを通して心理学の方法論を学び、「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」により心理学の基礎的知識を学びます。実験Ⅰの授業では実際に基礎実験や調査を行い、体験を通して方法論を習得します。実験Ⅱでは学生が自ら関心のあるテーマについて研究計画を立案し、実験や調査を実施します。半期の間に心理の全教員が担当し、すべての分野について実際に実施したデータに基づいてデータ分析を行い、レポート作成する過程を通し

て心理学の方法論を学びます。さらに「心理統計Ⅰ」「心理統計Ⅱ」によりデータ分析に必要な統計学的知識を身につけます。

また、各教員の専門科目の講義として「認知発達心理学」「認知心理学」「社会心理学」「感情心理学」が開講されています。2年次からはこれらの専門科目の講義も履修できます。これらの授業を通して、心理学の幅広い分野について基本的な知識を学びます。

3年次になると「心理学実験Ⅲ」と各専門分野の演習が受講できます。「心理学実験Ⅲ」では、半期の間、1名の指導教員のもとで研究を実施します。実習を経験しながら卒業論文に向けて、より実践的に心理学の研究手法を学びます。各専門の演習では、専門分野の論文を読み込んだり、研究計画を立てたりすることで、それぞれの分野について、より専門的な知識を身につけます。これらの講義や演習を通して、卒論研究を行うゼミを絞っていきます。実際にゼミに所属するのは4年次になってからです。

このように人間基礎論コースの心理学は、実験系の心理学が中心です。4名の教員だけでは担当できない臨床心理学などの分野については、毎年、講師をお呼びし、集中講義を開講しています。これらの授業を履修することで、認定心理士の資格取得が可能となっています。

学生生活

意外かもしれませんが、高知県内出身の学生は20パーセント程度と、それほど多くはありません。同じ四国である愛媛県、香川県、徳島県だけではなく、福岡県や大分県などの九州地方や、岡山県や

兵庫県などの出身者も数多くいます。そのため、学生の多くが一人暮らしであり、人文学部がある朝倉キャンパス周辺でアパートを借りています。近くに住んでいる友人も多いことから、学生どうしは非常に仲が良いです。また、心理学の教員4名に対し、心理分野を志望する学生は毎年20名程度です。4年生になるころには、教員もほとんどの学生の顔と名前を憶えており、和気あいあいとした雰囲気です。

また、人文学部がある朝倉キャンパスは高知市の西端にありますが、路面電車が走り、20分程度で市の中心部まで行くことができ、とても便利なところ。授業後に遊びに行ったり、アルバイトをしたりしている学生も多くいます。アルバイトでのさまざまな経験を通して、大学での講義では学べない社会人として重要なことを身につけているようです。

卒業後の進路

高知大学で心理学を専門とした学生は、卒業した後はさまざまな進路に進んでいます。旅行会社や銀行などの一般的な企業に就職する学生も多くいる一方、公務員や教員をめざす学生が毎年います。また、家庭裁判所の調査官になった学生もいます。高知県内や出身県だけではなく、大阪や東京などで就職する学生も多くみられます。どのような職業に就いても、学んだことを役立てて活躍しているようです。

もちろん大学院進学を望む学生もいます。さらに、実験系の心理学である高知大学を卒業した後で、臨床心理士をめざして他大学の大学院を受験する学生も、毎年少なからずみられます。